

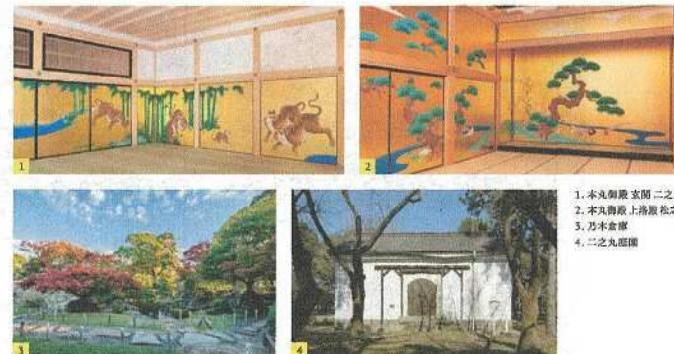
## 史跡・文化財の特別公開

普段目にすることのない光景に歴史を感じる

本丸御殿特別公開(最終入館16:00)

### ○玄関二之間 入室観覧

名古屋城本丸御殿の玄間に、竹林で群れ立ぶ虎が描かれています。虎は日本には生息しない異国の獣であり、来訪者を威圧するため御殿の入口に描かれたのです。また虎が吠えると風が起つ竹がなびくと言われています。日頃はお入りいただけない部屋の中で、四周にわたって連続する竹林と虎の躍動感をご体験ください。



### ○上洛殿松之間 特別公開

上洛殿は、三代將軍家光を迎える迎賓館として本丸御殿に増築されました。その中の松之間は、四周の襖はまろん床の間や長押上まで金箔が貼られ、本丸御殿のうち最も多くの金を用いた部屋といえます。襖間の後も描かれ、その豪華さに驚かされますが、将軍が入ることはなく、将軍の臣が待機する部屋であったと考えられます。

### 二之丸庭園空間演出

名勝二之丸庭園は、二之丸御殿の北側に造営された回遊式大名庭園です。起伏のある地形や豪壮な石組などを特徴とし、点在する築山や茶室、四季を彩る花々や樹木によって変化に富んだ空間が広がります。庭園には、千種創一+ON READINGによる作品が広域にわたって展開されています。なお「ナイトミュージアム名古屋城」期間中は、庭園のライトアップを実施します。

乃木倉庫特別公開(最終入館16:00)

名古屋城の西北、御深井丸の地にたたずむ、白い倉庫。乃木倉庫と通称される、旧陸軍の弾薬庫です。明治24年(1891)の濃尾震災や二度にわたる所有者変更、第二次世界大戦末期の焼夷弾攻撃など、存亡の危機にたびたび襲われながら、今なお創建の時に残る貴重な文化財です。今回、乃木倉庫では菅原歩の作品を展示します。

※「ナイトミュージアム名古屋城」期間中は、夜の本丸御殿、乃木倉庫を特別に公開します。(最終入館19:00)

## INFORMATION

各イベントの最新情報・お申し込みは  
公式サイト・SNSでご確認ください。

公式サイト Instagram

### 交通アクセス

【地下鉄】・名城線「名古屋城」下車7番出口より徒歩5分・鶴舞線「浅間町」下車1番出口より徒歩12分

【市バス】・栄13号系統(栄~安井町西)「名古屋城東・市役所」下車徒歩5分

・基幹2号系統「市役所」下車徒歩5分

・名ごと観光ルートバス(メグル)「名古屋城」下車すぐ、「名古屋城東・市役所」下車徒歩6分

【名鉄】・瀬戸線「東大手」下車徒歩15分

・名古屋高速1号楠線「黒川」出口から南北へ8分

・名古屋高速都心環状線「丸の内」出口から南北へ5分

### ○駐車場について

正門前駐車場 収容台数308台(普通車) 利用時間8:45~21:30 料金30分以内ごと180円

二之丸東駐車場 収容台数123台(普通車) 利用時間8:30~22:30 料金30分以内ごと180円

### お問い合わせ

名古屋城総合事務所 TEL 052-231-1700



名古屋城  
秋の特別公開

# アートサイト名古屋城

2024

あるく  
みる  
きくを

ART SITE in NAGOYA CASTLE

Key visual photo: Yaelahino Design

ART SITE in NAGOYA CASTLE

Found Perspectives for Tasty Sightseeing

アートに出会う名古屋城へ

1. 本丸御殿玄関二之間  
2. 本丸御殿上洛殿松之間  
3. 乃木倉庫  
4. 二之丸庭園

2024/11/28 thu — 12/15 sun  
10:00—16:30  
Closes at 19:30

ミュージアム名古屋城  
PERFORMANCE・TALK FOR YOU

名古屋城内各所

千種創一+ON READING  
Chigusa Soichi + ON READING

菅原果歩  
Kouiki Enkouan

狩野哲郎  
Kano Terusaburo

久保寛子  
Kubo Hiroko

高力猿猴庵  
Kōrakuen Kōken

蓑虫山人  
Minomashi Sanjin

川村亘平斎 | Kawamura Kouhei

1980年東京生まれ、東京都在住。影絵師／音楽家。インドネシア・バリ島の伝統影絵「ワヤンクリット」を現代的な文脈で捉え直し、新たな芸能のカタチを模索し続ける影絵師。世界各国で影絵と音楽のパフォーマンスを発表。ガムランを使った音楽ユニット『滝空詩』主宰。

山城大督 | Yamashiro Daisuke

1983年大阪府生まれ、京都府在住。美術家・映像作家。映像の時間概念を空間やプロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない「時間」を作品として展開する。近年は映像や音、光、家具を配置する上演型インスタレーションを制作している。

野村誠 | Nomura Makoto

1968年名古屋市生まれ、無本県在住。作曲家、ピアニスト、鍵盤ハーモニカ奏者。クラシック、ロック、邦楽、民族音楽など様々な音楽ジャンルを駆使し、美術、舞台、文学、だらけ、相撲、建築、教育、福祉、剣道、環境など異ジャンルとコラボレーションを積極的に行う。

G.川村亘平斎(川村亘平斎の影絵と音楽「オロカカラ～なまざき天羽は船を通り」) 2024/ 審査提供:東京芸術劇場写真:藤井光永/H.山城大督(SOUND OF AIR) 2023 審査:Tololo studio I.L.野村誠(オーバル双窓の竹野の段) 2020 幕開脚アーベンティア製鏡/日本相撲開拓芸術作家由家謙介共演作曲作品 | @gaku photo studio | \*いずれも参考作品

アートに出会う名古屋城へ

あるく  
みる  
きくを

ART SITE in NAGOYA CASTLE

Found Perspectives for Tasty Sightseeing

アートに出会う名古屋城へ

1. 本丸御殿玄関二之間  
2. 本丸御殿上洛殿松之間  
3. 乃木倉庫  
4. 二之丸庭園

2024/11/28 thu — 12/15 sun  
10:00—16:30  
Closes at 19:30

ミュージアム名古屋城  
PERFORMANCE・TALK FOR YOU

名古屋城内各所

千種創一+ON READING  
Chigusa Soichi + ON READING

菅原果歩  
Kouiki Enkouan

狩野哲郎  
Kano Terusaburo

久保寛子  
Kubo Hiroko

高力猿猴庵  
Kōrakuen Kōken

蓑虫山人  
Minomashi Sanjin

川村亘平斎 | Kawamura Kouhei

1980年東京生まれ、東京都在住。影絵師／音楽家。インドネシア・バリ島の伝統影絵「ワヤンクリット」を現代的な文脈で捉え直し、新たな芸能のカタチを模索し続ける影絵師。世界各国で影絵と音楽のパフォーマンスを発表。ガムランを使った音楽ユニット『滝空詩』主宰。

山城大督 | Yamashiro Daisuke

1983年大阪府生まれ、京都府在住。美術家・映像作家。映像の時間概念を空間やプロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない「時間」を作品として展開する。近年は映像や音、光、家具を配置する上演型インスタレーションを制作している。

野村誠 | Nomura Makoto

1968年名古屋市生まれ、無本県在住。作曲家、ピアニスト、鍵盤ハーモニカ奏者。クラシック、ロック、邦楽、民族音楽など様々な音楽ジャンルを駆使し、美術、舞台、文学、だらけ、相撲、建築、教育、福祉、剣道、環境など異ジャンルとコラボレーションを積極的に行う。

G.川村亘平斎(川村亘平斎の影絵と音楽「オロカカラ～なまざき天羽は船を通り」) 2024/ 審査提供:東京芸術劇場写真:藤井光永/H.山城大督(SOUND OF AIR) 2023 審査:Tololo studio I.L.野村誠(オーバル双窓の竹野の段) 2020 幕開脚アーベンティア製鏡/日本相撲開拓芸術作家由家謙介共演作曲作品 | @gaku photo studio | \*いずれも参考作品

2024年11月28日(木)~12月15日(日)  
開園時間 | 9:00—16:30(閉園17:00) 作品観賞時間 | 10:00—16:30  
\*西の丸御殿前宝塼、乃木倉庫、本丸御殿への入館は16:00まで \*天守閣には現在入場できません  
\*12/6, 7, 8は「ナイトミュージアム名古屋城」に併せて夜間公開いたします

観覧料 | 大人: 500円 中学生以下: 無料  
\*名古屋城内高齢者(敬老手帳持参の方): 100円 \*障害者手帳をご提示の方: 無料(付き添い2名まで)  
\*名古屋城内の観覧料で「史跡・文化財の特別公開」「アートサイト名古屋城」「ナイトミュージアム名古屋城」を併せてご覧いただけます

企画・制作 | Twelve Inc. 主催 | 名古屋市  
<https://nagoya.art/>

## アートサイト名古屋城

2024

を

あじわう

アートに出会う  
名古屋城へ

2023年に開催し好評を博した、史跡が舞台のアートプロジェクト「アートサイト名古屋城」。今秋は、年間200万人以上の人々が国内外から訪れる「観光地としての名古屋城」からインスピレーションを受け、「観光する行為」そのものをテーマに、総勢6組のアーティストによる作品を城内全域にわたって展開します。

また会期中には、夕暮れから夜間にかけて賑わう3日間の限定イベント「ナイトミュージアム名古屋城」を開催。観光地であり、文化財でもある名古屋城を味わい、新たな魅力に遭遇する体験をどうぞお楽しみください。

## ◎ARTIST PROFILE

## 狩野哲郎 | Kano Tetsuro

二之丸庭園・本丸御殿内・本丸・御深井丸

1980年宮城県生まれ、神奈川県在住。生物から見た世界／狩獵／漁業／測量などを軸として国内外でリサーチ／滞在制作を行う。近年のインスタレーションでは、時に鳥という「他者の視点」をとりこみ、私たちが意識することのない新たな知覚や複数的な世界への想像を促すような作品を制作している。

## 久保寛子 | Kubo Hiroko

本丸御殿 中庭・車寄

1987年広島県生まれ、千葉県在住。広島市立大学芸術学部彫刻専攻を卒業後、テキサスクリスチヤン大学美術修士課程修了。先史藝術や民族藝術、文化人類の學説に取材しながら、生活に身近な素材を用いてスケール感の大きなインсталレーションを展開している。

## 高力猿猴庵 | Kouriki Enkouan

西之丸

1756年生まれ、1831年没の尾張藩士。江戸時代後期の名古屋の祭り、見世物、開帳など、娛樂や話題になった事件の記録をビジュアル入りで記した本を残した。城下の顕彰が生き生きと描写されている。これらは名古屋市博物館から「猿猴庵シリーズ」として刊行されている。

## 菅原果歩 | Sugawara Kaho

乃木倉庫

2000年秋田県生まれ、東京藝術大学先端芸術表現専攻在籍。野鳥を対象に撮影、制作、フィールドワークを行い、主にオルタナティブプロセスを用いて写真をプリントしている。デジタル写真をあえて古典技法を用いて焼き付けることで視覚を物質化し、原始的なイメージを得よう試みる。

## 千種創一 | Chigusa Soichi

二之丸庭園

1988年愛知県生まれ。2005年頃より作歌を開始し、歌人、詩人として活動。平易な言葉を使いつつも、感情の微動に新しい陰影を与える歌を得意とする。積極的な会話体の導入による短歌の可能性の拡大を追求している。

## ON READING

二之丸庭園

黒田義隆・杏子が運営するbookshop & gallery。2006年に前身となる書店をオープンし、2011年に名古屋市・東山公園に移転しギャラリーを併設する書店としてリニューアル。2009年に出版レーベル「ELVIS PRESS」を立ち上げ、これまでにおよそ30タイトルをリリースしている。

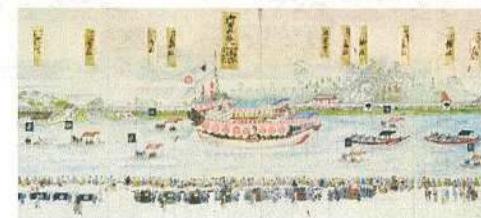
## 糞虫山人 | Minomushi Sanjin

西之丸

1836年美濃国(岐阜県)生まれ、1900年愛知県役の絵師、考古、造園家。生活用具一式を窓(修驗者)が絵文や仮具を入れて背負った木箱に入れ、全国各地を旅しながら寄宿先の様子などを詳細に記録した放浪の画人として知られる。



A



B



C



D



E



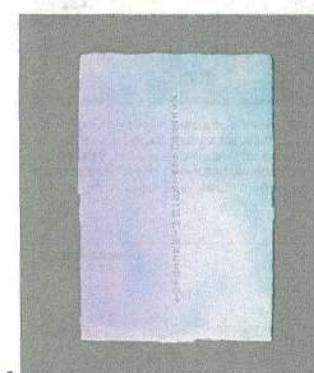
## あるくみるきくをあじわう

民俗学者の宮本常一は「歩く」「見る」「聞く」を旅の基本とし、日本観光文化研究所を設立し、雑誌「あるくみるきく」を刊行しました。観光地としてよく知られる史跡名古屋城を会場とする本展は、宮本による「あるく」「みる」「きく」という態度に着想を得ています。

たくさん的人がさまざまな旅や移動を重ねる現代、文化や歴史と観光は密接な関係にあり、歴史的文化財である名古屋城は地域の重要な観光資源でもあります。観光は人と、地域と人の出会いを産み、観光地は学びの場ともなっています。

## 旅と暮らし、記録と表現の民俗誌

本プロジェクトでは、庶民が自由に旅をすることが簡単ではなかった江戸から明治初期にかけて日本国内を旅し、様々な土地の人やものと出会い交流を重ね、ユーモラスな旅の記録を絵日記で残した美濃国人に生まれ尾張国に没した糞虫山人の



F

絵日記を起点に展開します。糞虫は、アートプロジェクトを先駆けるように旅と表現を結びつけた壮大なプロジェクトを構想した、旅人／絵師／考古・民俗学者／造園家など様々な顔をもつ表現者です。風光明媚な風景や建築物のなかに彼自身や彼が出会った人やものを描き込み、現代のSNSや自撮りを先取りするような、パーソナルな記憶と土地にまつわる歴史的な記録を重ねた絵を多数残しました。糞虫山人は「あるくみるきく」を基本とし、それをあじわい愉しみことで独自の旅の表現を築いています。

一方で、江戸中期に尾張國に生まれ、この地に暮らした絵師高力猿猴庵は名古屋城下の人々の暮らしや風俗を丹念に描いた図絵を多数残しています。猿猴庵は名古屋城下を日々歩き、丹念に見た人です。

生態、環境、歴史、風景や  
人への多角的アプローチ

2000年生まれの菅原果歩は名古屋城に棲むカラスに着目します。昼間は観察客で騒ぐ名古屋城ですが、夜はたくさんのカラスが舞い戻ります。菅原はカラスたちの様子をサイドノタップという日光を用いた写真とフィールドノートにより記録していきます。

植物や鳥など、人間以外のものたちへと目を向ける狩野哲郎は、屋外の水飲み場やバナナ(芭蕉)

の木など通常の観光ではあまり注目されない場所に立体作品を展開します。さらに本丸御殿でも模絵の動植物たちに呼応するように作品を展示します。

本丸御殿中庭には、シャチホコに関心を抱いた久保寛子がシャチホコのルーツとされるインドの神獣マカラとそれに跨る女神をモチーフした彫刻を設置します。マカラは水を司る神で、水害に悩まされてきたこの地域では様々な治水工事が行われてきました。水害や工事現場で用いられるブルーシートを素材に彫刻は形成されます。

そして、二之丸庭園には歌人／詩人の千種創一と歌集の出版なども行う書店 ON READING の協働による作品を発表します。回遊式庭園の特性を活かし、庭園内各所に千種による短歌が鏡に印字されて散りばめられます。散策のなかで、「わたし」とは何か、「あなた」とは何かと問いかけるような作品との出会いをお楽しみください。

城内に展開される作品を巡るとともに、文化財、そして観光地としての名古屋城という場も「あるくみるきく」を通じて深く味わっていただければと思います。

服部浩之  
(本プロジェクトキュレーター)



糞虫山人《焚ト笠》明治時代中期頃「糞虫山人絵日記(秋山編)」より

A. 久保寛子《鰐骨のゴッサス》2013 || B. 高力猿猴庵《御船御行列之図》江戸後期 | 名古屋市博物館所蔵 | C. 糞虫山人《松原やるま里あり一時頃(名古屋城長崎町前)明治時代中頃頃》| 糞虫山人絵日記| より | 真: 田畠摺 | D. 菅原果歩《飛鳥滑石記》2021-2022 | E. 狩野哲郎《(1)の特別な要求/21 specific requirements 2023 | Reborn-Art Festival 2021-22—判決と後勤性—での糞虫山人》 | F. 千種創一 | 制作: 岩本綾 (2019, PAPERWORK 紙本作業) | テキスト引用元: 千種創一『砂丘像』 | 真: ただ(めかひ) | \*いずれも参考作品